

### 第3回 双葉町津波被災地域復興小委員会 議事概要

■日 時：平成26年10月10日（木） 午後1時00分～3時00分

■場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者：別紙座席表のとおり

#### ■議事概要

##### 1. 開 会

##### 2. 町長あいさつ

##### 3. 議 事

###### (1) 新たな土地利用構想（案）について

資料2・3に基づき、事務局より説明後、質疑。

委員の主な意見は以下のとおり。

- 海岸防災林の整備で津波による被害は減少するのか。
- 復興祈念公園のなかで津波防御に寄与するような整備を考えているのか。
- 浪江町の地権者もたくさんおり、今回の土地利用計画にどれだけの住民が協力してくれるかが課題である。
- 土地の買い取り価格や借地権のことなどを提示していただきたい。価格はこの計画が決まらないと決まらないのか。
- 小委員会です承した土地利用計画は、地域住民に説明をしていただきたい。
- 今回の土地利用計画は、概ね良いと思われる。
- 両竹地区は、農業再生モデルゾーンと太陽光発電基地となっているが、やはり太陽光発電だけでなく、他の案もあったほうが良い。
- 植物工場も考えられるが、誘致などは課題として残るとと思われる。
- 復興産業拠点について、わざわざ津波の被害があった地域につくる必要があるのか。
- 津波被災地域の復旧・復興の前提条件として、帰還の際は双葉駅周辺に構想される住宅地、とあるが実際はいわき市や避難先等で家を再建している方もいる。このように故郷を離れていかなければいけない状況のなかで、住民が賛成するのか疑問である。
- 津波防災の観点から、浜街道の嵩上げは行わないのか。
- 住民意向調査は、できるだけ早く調整して実施していただきたい。
- 墓地は早めに方向性を示して欲しい。
- 今後の予定のなかで、福島第一原子力発電所の廃炉との関連もあるが、帰還はいつごろになるのか。

- 浜野・両竹地区も町内の他の地区と一緒に帰還するようにしていただきたい。
- 復興祈念公園などの利用者が津波から避難するための高い建物をつくることは考えられないのか。
- 両竹地区は太陽光発電事業しか考えられないと思うので、無駄なく使って、利益を少しで還元できればよい。
- 墓地については、共同墓地としていただきたい。また、みんな墓地については悩んでいるので計画案を早めに住民に提示していただきたい。
- 双葉町と浪江町との境界に設置されているゲートは、一時帰宅の際の緊急時は避難の障害となるため、開放していただきたい。
- 今回の土地利用計画は賛成なので、スピード感を持って実行していただきたい。
- 太陽光発電の他の案については、いろいろと経験のある方からのアドバイスをもらって検討していただきたい。
- 先日、被災地域の家屋内のごみの回収が行われたが、今後も定期的に実施していただきたい。
- 家屋内のごみについては、東京電力のサポートセンターに連絡すれば、対応していただける。
- ここから復興の足音を響かせて、双葉町の方に希望、安心と夢をつないでほしい。

#### 4. 閉 会

以上

# 第3回双葉町津波被災地域復興小委員会座席表

(敬称略)

1 日時 平成26年10月10日(金)  
13:00~16:00  
2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室

菅本 長林 齊藤  
洋 久夫 六郎

課長 駒田 義誌	事務局 (復興推進課)	町長 伊澤 史朗	荒木 茂
課長補佐 細澤 界		副町長 半澤 浩司	
主任主査 橋本 靖治			
副主査 山下 明弘	事務局 (復興推進課)	総括参事 武内 裕美	吉田 正志
主事 西牧 孝幸		総務課長 船来 丈夫	
支援員 米山 治介			
支援員 山中 啓稔	産業建設課長 猪狩 浩		
支援員 由波 大樹	事務局	住民生活課長 松本 信英	
支援員 小山 勲			

久米田 武雄	復興庁 石川 義浩 参事官補佐
	復興庁 福島復興局 仙波 靖 参事官
	復興庁 福島復興局 堀川 昌昭 参事官
平岩 節子	復興庁 福島復興局 須田 亨 参事官補佐
	環境省 福島環境再生事務所 谷岡 淳也 専門官
	環境省 福島環境再生事務所 若松 佳紀 専門官
	福島県 まちづくり推進課 鈴木 勝徳 主幹
	福島県 避難地域復興課 駐在員 熊坂 雅彦 副課長(双葉町担当)
	福島県 相双建設事務所 企画調査課 芳賀 英幸 課長
	福島県 相双建設事務所 企画調査課 菊地 和良 係長
	福島県 相双建設事務所 企画調査課 榎 敦司 主任主査
	福島県 相双農林事務所 指導調整課 齋藤 芳弘 主任主査